

第3学年 音楽科学習指導案

題材名：曲想と音楽の構造との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう

指導者：

- 1 日 時 : 令和4年9月28日(水) 第5校時
- 2 場 所 : 第1音楽室, 第2音楽室, 第1美術室
- 3 学年・学級 : 第3学年1組(40名) くすのき学級(1名)
- 4 題 材 名 : 曲想と音楽の構造との関わりを理解して、歌唱表現を工夫しよう

(1) 題 材 観

本題材では、「単元を貫く問い」として、「感動を与える合唱とは、どのような歌声か」というテーマを掲げ、本校合唱コンクールに向けて、課題曲「いのちの歌」に取り組む。新学習指導要領の次の事項を指導するために設定した。

【第2学年及び第3学年】

- A 表現(1) ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。
- イ(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり
- ウ(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能

[共通事項]

- イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きを関わらせて理解すること。

本題材で扱う「いのちの歌」は、竹内まりやが作曲、村松崇継が作詞した「命」をテーマにつくられた作品で、歌詞の意味を感じ取ったり、歌詞の情景を自分に置き換えて歌ったりするなど、思いを込めて歌いやすい楽曲である。そのため、ただ歌うのではなく、楽譜から作詞者や作曲者の思いを読み取った上で、自分たちが表現したいことは何か、どのように歌えば聴き手に伝わるのかを生徒同士が考え、探究しながら表現を工夫していくことに適した題材といえる。

(2) 生 徒 観

本学級の生徒は、明るい雰囲気をもっており、学習活動においても落ち着いて取り組むことができる。しかし、4月の行ったhyper-QUの結果からは、学級の中で本音が出せない生徒や、友達から認められていないと感じている生徒が数名いることが分かった。また、学校生活等に不安を抱えている生徒が約15%在籍しているのも特徴である。

事前に実施した音楽科アンケートでは、62.9%の生徒が合唱で歌うことを好んでいることが分かった。ただ、音程以外の事項(強弱やブレスの位置等)に気をつけて歌ったり、歌詞の意味を考えながら、自分なりの表現で歌ったりすることには消極的であることが分かった。

(3) 指 導 観

本題材は、本学級の生徒にとって最初で最後の合唱コンクールの取組で扱う楽曲となる。三年間の集大成として、また後輩たちの手本として、精一杯の歌声とクラスの絆を見せられる場にしてくれることを願う。

指導に当たっては、本校の研究テーマである『資質・能力の育成をめざした学びの創造』～コミュニケーションを活用した授業と、問いの工夫を通して～』に沿って、作詞・作曲者の思いや意図を理解した上で、生徒同士が試行錯誤しながら表現の工夫を行えるよう指導していく。

そのために、しっかり楽譜を読み込ませ、旋律や音楽記号等と歌詞の両面から楽曲の持つメッセージに気づかせながら、自分たちの作品として表現し、楽曲の良さを聴き手に伝えるにはどのように歌えば良いか探究させていく。また、生徒同士が自分の思いを相手に伝えたり、相手を受け入れたりする中で、仲間づくりにつなげていきたい。

(4) 本題材において育成しようとする資質・能力

本校で育成しようとする資質・能力は以下の4点である。

【知識及び技能】			
【思考力, 判断力, 表現力等】	① 伝える力	② 問題解決能力	
【学びに向かう力, 人間性等】	③ 協働する力	④ 公共心	

この中から、本題材で育成しようとする資質・能力は次の2点に重点を置くものとする。

【思考力, 判断力, 表現力等】 ② 問題解決能力

・作詞者、作曲者の意図を歌で表現するには、どのような歌い方で歌えば良いか、試行錯誤しながら表現を工夫している。

【学びに向かう力, 人間性等】 ③ 協働する力

・パートごとの役割を考えながら、自分たちが表現したい表現で歌えているか、表現の工夫が観客に伝わる表現になっているのか、パートやクラスで協働しながら考え、工夫している。

5 題材の目標と評価規準

○ 題材の目標 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌う。

○ 題材の評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ○創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。	○リズム, 速度, 旋律, 強弱を知覚し, それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら, 知覚したことと感受したこととの関わりについて考え, 曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち, 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

6 指導と評価の計画 全4時間 (本時は3/4)

次	学習内容 (時数)	評価					
		知 技	思 判 表	主 体	評価規準	評価方法	資質・能力 (評価方法)
1	歌詞の内容や楽譜から作詞・作曲者の思いを読み取りながら、パートごとに音取りをする。(1)	◎			〔知技〕 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ○創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。	行動観察 ワークシート	
2	各パートで感じた曲想について発表し合い、クラスの表現へとイメージを統一する。(1)			◎	〔主体〕 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	行動観察 ワークシート	
3	楽曲のもつ音楽の特性を知覚し、それらの生み出す特質や雰囲気から表現の工夫を行う。 (1) 本時		◎		〔思判表〕 ○リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	行動観察 動画 ワークシート	② 問題解決能力 作詞者、作曲者の意図を歌で表現するには、どのような歌い方で歌えば良いか、試行錯誤しながら表現を工夫している。 (行動観察) (動画) (ワークシート)
4	クラスの表現として工夫し、表現の工夫をまとめ、完成させる。(1)			◎	〔思判表〕 ○リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。	行動観察 動画 ワークシート	③ 協働する力 パートごとの役割を考えながら、自分たちが表現したい表現で歌えているか、表現の工夫が観客に伝わる表現になっているのか、パートやクラスで協働しながら考え、工夫している。 (行動観察) (動画) (ワークシート)

7 本時の展開

(1) 本時の目標

表現の工夫が聴き手に伝わる歌い方を探求しよう

(2) 観点別評価規準

◎リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。

評価方法：行動観察、動画、ワークシート

(3) 育成したい資質・能力の評価基準

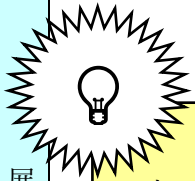
資質・能力	評価基準
②問題解決能力	<p>A 作詞者、作曲者の意図を歌で表現するには、どのような歌い方で歌えば良いか、試行錯誤しながら表現を工夫し、その表現の工夫が相手にも伝わっている。</p> <p>B 作詞者、作曲者の意図を歌で表現するには、どのような歌い方で歌えば良いか、試行錯誤しながら表現を工夫している。</p> <p>C Bを満たしていない。</p>

(4) 準備物：Chromebook ワークシート

(5) 学習の展開

	学習活動	指導上の留意事項（・） （努力を要する生徒への指導の手立て◆）	評価規準 ○教科の事項 ☆資質・能力 （評価方法）
導入	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">課題の設定</div> ○発声練習（10分） ・「校歌」「いのちの歌」	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> めざせゴールデングランプリ！ 観客が感動する合唱とはどんな歌声だろう </div>	
	○本時の目標の確認（5分） ・様々な作曲家の表現の工夫を確認する。 ・パートごと課題曲の表現の工夫を行うことを確認する。	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> 【本時の目標】 表現の工夫が聴き手に伝わる歌い方を探求しよう </div> ・様々な作曲家が行った表現の工夫を例に出し、表現を工夫することで、音楽が豊かになることを確認する。	

展開	<p>○表現の工夫を探求（25分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パートごとに分かれ、表現を深める部分を Chromebook で撮影して聴き、現状を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に Chromebook で撮影する担当を決めておき、その生徒が撮影する。 	<p>○リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を受感しながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p> <p>（ワークシート）</p>
	<p>・ゴールイメージに近づけるには、どのような表現を工夫していくか具体的に考え、歌いながら試していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌い方を試す場合には、必ず Chromebook で撮影し、確認しながら表現を工夫させる。 ◆表現が深まらないパートには、楽譜の強弱記号や、構成に着目させる等のヒントを与える。 	<p>☆問題解決能力 （Chromebook）</p> <p>作詞者、作曲者の意図を歌で表現するには、どのような歌い方で歌えば良いか、試行錯誤しながら表現を工夫している。</p>
まとめ	<p>○振り返り（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに表現した結果をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次回、各パートの表現を披露し合い、クラスの表現としてまとめていくことを伝える。 	



【主体的・対話的な学びの時間】
工夫した表現が、相手に伝わる表現になっているか探究する

(6) 板書計画

<p>本時の目標</p>	<p>表現の工夫が聴き手に伝わる歌い方を探求しよう</p> <p>※モニターに P.P.で資料を映しながら説明します。</p>
---------------------	---